

城端線開通 120 年記念連続講座 『城端線は何を変えたのか』
第4回 「人が動いた、地域が変わった」

「 城端線の役割はどう変わってきたのか 」

砺波市立砺波散村地域研究所

所員 西野 真夫

1 鉄道の役割・機能

- 【19 世紀】 石炭・綿花など → ①貨物輸送 安価で大量の貨物 陸上輸送
【20 世紀】 都市の発達 → ②短距離大量輸送 大都市近郊の通勤
【20 世紀後半・21 世紀】
新幹線など → ③中距離高速輸送 日本・ヨーロッパ+中国など

2 中越鉄道・城端線は

- ①開業～第二次世界大戦
貨物輸送
- ②戦後～高度経済成長
沿線の工業化、高岡（伏木）への通勤・通学
- ③1980 年代以降
自動車の普及、農村工業化の進展、高岡の中心性低下

3 いま、どんな役割が地方公共交通に求められるのか？

人口減少社会 特に高校生＝城端線利用者
大量輸送の必要性低下
富山県 極めて高い運転免許・自動車普及率

多頻度少量輸送 在来鉄道 or LRV あるいはバスなど

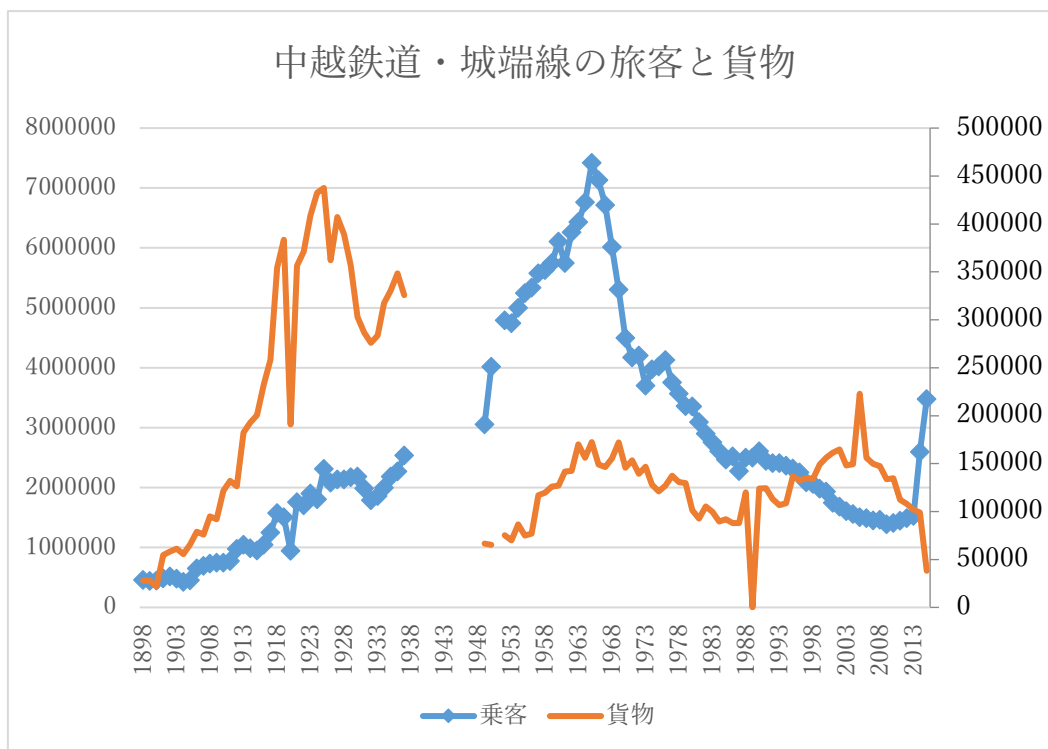
※どうすれば持続可能な公共交通機関を確保できるか

【資料 1】

問 次の表はアメリカ合衆国、イギリス、インド、中国、日本における鉄道輸送量（旅客・貨物）を示している。アメリカ合衆国と日本に該当するものをそれぞれ選び、記号で答えよ。

国	旅客 (億人 km)	貨物 (億 t km)
(A)	95	25, 246
(B)	7, 956	25, 183
(C)	4, 144	211
(D)	659	192
(E)	9. 785	6, 257

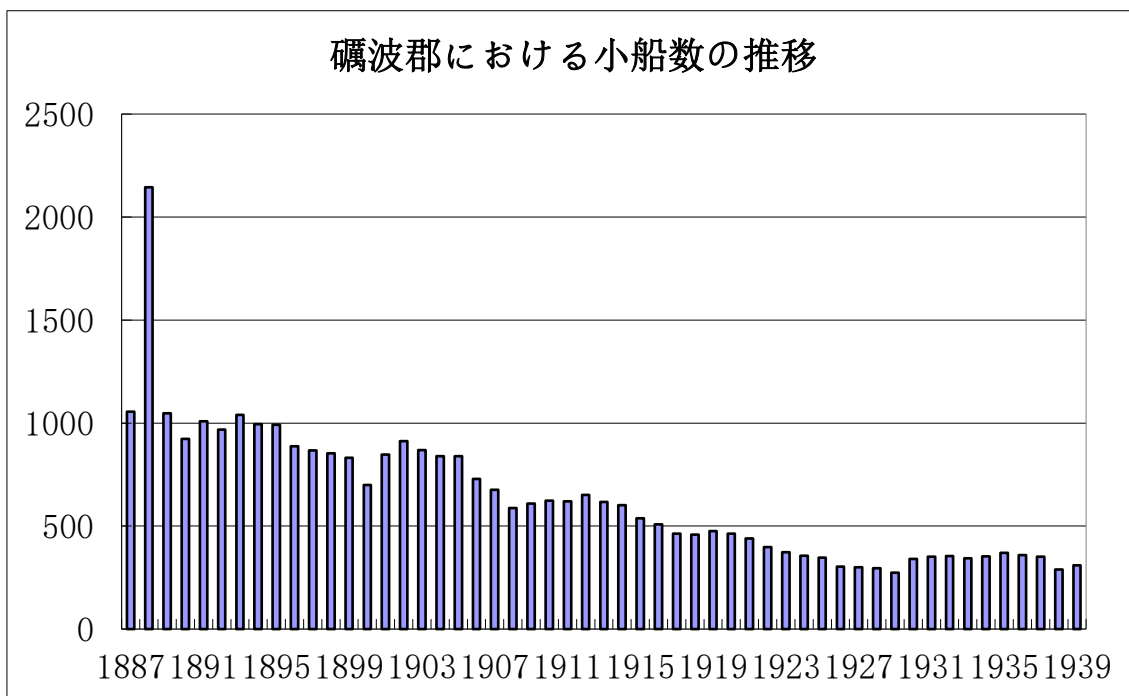
【資料 2】



※左軸は年間の乗客（人）、右軸は年間の貨物（トン）。1925（大正 14）までは中越鉄道・中越線の数値、1926（昭和元）より城端線の数値（氷見線の分を除いた数値）

『富山県統計書』より

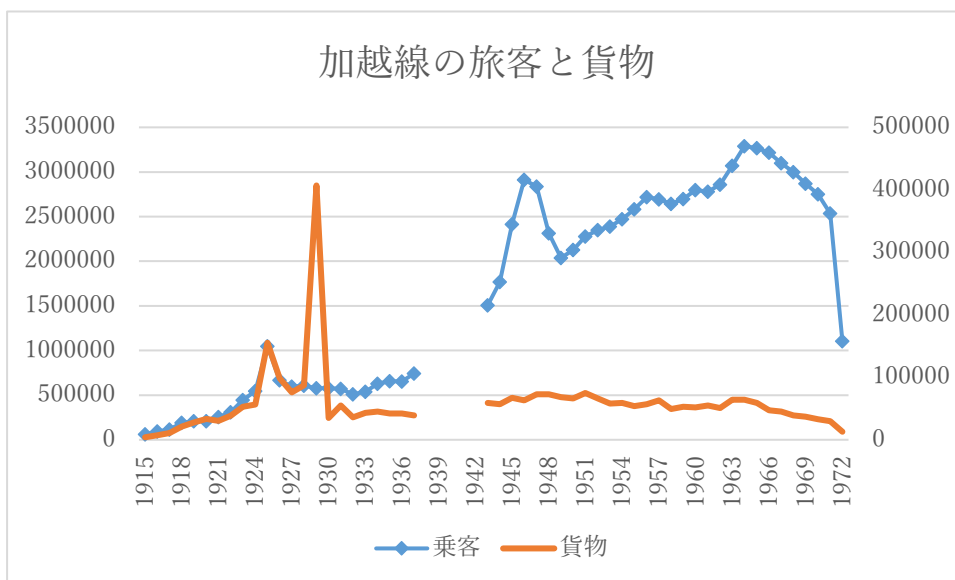
【資料 3】



※1896（明治 26）以降は東礪波郡と西礪波郡の合計。

『富山県統計書』より

【資料 4】



※左軸は年間の乗客（人）、右軸は年間の貨物（トン）。

『富山県統計書』より